

学校教育目標

自ら考え 自らの力で 未来を切り拓く宮野浦の子ども ～自律・協働・創造～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



宮小だより



令和5年6月20日号
発行:酒田市立宮野浦小学校

今最善と考えられるやり方で

4日の地区体育祭にたくさんの応援をいただきありがとうございました。途中で中止という判断をいたしました。児童の帰宅は混乱無く対応することができました。全学年徒競走を実施でき、保護者・地域みなさんに子どもたちのがんばる姿をお伝えする場になりました。

14日にはプール開きを行い、7月21日まで水泳学習の期間になります。今年度から保護者のみなさんからはカード記入ではなく、ポータルサイトで入力をお願いしています。朝の時点で担任が一覧表で確認することができ、事務の効率化につながっています。また、年2回お渡ししている通知表の学習面や生活面について、担任からの所見記載は後期(3月)のみといたします。前期(9月)については、保護者の皆さんと担任が面談しながら、お子さんについて一緒に考えていくことができる場として設定します。日ごろから、子どもたちとの対話を重視してタイムリーに子どもたちに声をかけることができるよう、今後も全ての教職員が努めていきます。

先月の地域説明会で、四中学区における義務教育学校の開校について基本方針が説明されました。保護者の皆さんにも、『子どもを通わせる学校をつくる』という視点で、これまで以上に提案・協力いただけると大変ありがたいです。

【参考資料 6/9 山形新聞 気炎より抜粋】

日本の公教育の現場である学校が崩壊しかけている、そんな不安を感じるニュースがあまりにも多い。2021年教師不足の全国実態調査で1897校が該当するとされた。しかし実態ははるかに深刻で、不足の原因は多忙化、休職者の増加、採用試験の受験者急減などがある。国は、働き方改革や外部人材の活用、業務・学習支援員の増員、部活動の地域移行、最近では教職員給与特別措置法の見直しで改善しようとしている。問題解決を考える場合、現場の実態がどうなっているかを直接見て分析するのが鉄則である。学校はだれのためにあるのかという根本的なことが顧みられていない。今こそ大胆な裁断が必要である。教師の学習指導以外的大幅な業務削減と教員の増員。それができなければ、学校はやがて崩壊の道をたどる。そういうシナリオが頭をかすめる。

☆お知らせ

昨年度6月の学校だよりでは、自転車乗りについて地域の方々から多くの指摘を受けていることをお知らせしました。今年度はそれが大変少なくなりました。子どもたちの見守りや声かけを、保護者や地域みなさんからも積極的に行っているからと考えます。「地域みんなで子どもが育つ環境」をこれからもつくっていきましょう。

校長

